

## 第 11 回 世界脳神経看護学会 (WFNN Congress 2013)



世界中の看護師たちと交流できるチャンス。  
研究をさらに進めて次回の参加も目指します。

4年に1度各国で開かれ、最新の研究成果や看護事例などを発表。  
脳神経分野で専門知識を持った看護師が集まる世界脳神経看護学会。

2013年9月13日から16日まで、第11回世界脳神経看護学会が日本で開催されました。国内の脳卒中リハビリテーションの認定看護師をはじめ、世界中から脳神経疾患を専門とする看護師たちが集まり、発表や交流を通してよりよい看護について考えるというまたとない機会です。私も認定看護師として同じ仲間たちと交流したいと考え、この学会に参加しました。特別講演やワークショップなどのプログラムもありますが、自分の看護研究の成果を発表することが一番の目的です。

私の看護研究のテーマは、「気管内挿管で口の中に潰瘍ができる人とできない人の差は何か？」というものです。長期間気管挿管していても潰瘍ができない人もいれば、数日でできる人もいる。日頃からICUの現場で感じていた疑問をあらためて研究してみようと思ったことがキッカケです。約100名分のカルテを調べ、挿管から潰瘍ができるまでの日数、できた人の病気や特徴、長く挿管してもできなかった人との比較などをデータ化。調べていくうちに、低栄養だと感染症状が出やすく、それが原因のひとつではないかという分析結果を導き出しました。



海外と日本との看護の常識や意識の違いに驚くと同時に、  
そのスケールの大きさに視野が広がり、今までにない刺激が勉強に。

この研究成果が学会で発表できることになり、当日は、症例数や分析結果をまとめたポスター発表を行いました。持ち時間は1時間。ポスターを見た看護師たちからの質問に答えたり、その場で意見交換を行ったりします。その時、オーストラリアやクロアチアなどの海外の看護師から「なぜリスクが高まるのに長期間挿管するのか?」と思ってもいない質問が。海外では3日たったら切開するという意見を聞き、日本では、切開した傷が残ることに対する抵抗が大きいので、考え方の違いを強く感じました。私たちは地域単位で物事を考えがちですが、ここでは考え方が国や世界単位です。スケール感の違いに圧倒されましたが、他国の看護師たちの考え方や取り組みは勉強になることばかり。もちろん共通点も多く、多くの看護師たちと交流できたことは大きな励みにもなりました。次回は4年後、クロアチアで開かれます。症例数を増やしさらに研究を深め、ぜひまた学会に参加したいです。



社会医療法人 祥和会  
脳神経センター大田記念病院

看護部

三好 マユミ

脳卒中リハビリテーション認定看護師。  
教育担当として活躍中。